

大学生の遅刻をめぐる意識と行動

奈良女子大学 生活環境学部

生活文化学科 安藤ゼミ

09463074 鵜飼万莉子

目的

時間にルーズな者とそうでない者では

- 普段の生活態度
- 社会志向性
- 進路選択に対する意識



以上3つの点において違いがみられるか否かを調べる。

方法

質問紙調査

- 調査時期 2012年10月
- 対象者 奈良女子大学に在籍する学生(1回生から4回生)
- 回収率 83部 83%

遅刻の原因

	人数	%
時間の逆算の甘さ	51	61.4
直前に準備	40	48.2
寝坊	35	42.1
相手も遅れる	16	19.2
許される	11	13.2
乗り気でない	9	10.8
交通の便が悪い	9	10.8
遅れても気にしない	5	6.02

遅刻と生活態度の関係

遅刻しやすい人ほど……

①物をなくす頻度が高い

②レポートや課題に取りかかる時期が遅い



遅刻と進路選択行動

遅刻しやすい人ほど・・・

- ①自分の能力を正確に評価すること
- ②就職時の面接でうまく対応すること
- ③将来の仕事において役に立つと思われる免許・資格取得の計画を立てること



において自信がない

遅刻と社会志向性

遅刻しやすい人ほど・・・

困ったことがあると、すぐ人に頼ってしまふ

ただし、遅刻と社会志向性に強い相関関係はなし



まとめ

1. 遅刻群は非遅刻群に比べて生活態度全般においてルーズである

2. 遅刻群は非遅刻群に比べて進路選択意識が低い

3. 遅刻群は非遅刻群に比べて社会指向性が低い

考察

- 「寝坊」「時間の逆算の甘さ」「出かける直前に準備を始める」が遅刻の原因として認知度が高い
- 時間に余裕を持って行動をすることが苦手
- 自分の人生設計を計画的に立てることが苦手
- 進路選択行動や、レポート・課題に取りかかる時期が遅い

ご清聴ありがとうございました

